

平成26年度 第1回 経営協議会 議事要録

- 1 日 時 平成26年6月25日(水) 14時00分から16時10分
- 2 場 所 地域・国際交流プラザ 会議室
- 3 出席者
(学外委員) 飯泉委員、植田(和)委員、植田(貴)委員、佐野委員、古川委員、山本委員、結城委員
(学内委員) 香川学長、高石理事、野地理事、岩川理事、吉田理事、安井病院長、河村大学院ソシオテクノサイエンス研究部長
(陪 席) 牧野監事
(事務局) 総務部長、財務部長、学務部長、施設マネジメント部長、研究国際部長、情報管理活用監、総務課長、大学改革推進室長、人事課長、企画・評価課長、財務課長、キャリア支援課長 ほか

(議事に先立ち、学長から、4月1日付けで就任した学外委員のうち新たに委員となった植田(和)委員、佐野委員及び結城委員の紹介があった。)

4 協議事項

(1) 学長選考会議学外委員の選出について

学長から、別紙協議事項1資料により、学長選考会議1号委員の任期満了に伴う後任の委員選出について説明があり、審議の結果、これを承認した

(2) 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

岩川理事から、別紙協議事項2資料により、平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(3) 平成25事業年度決算について

岩川理事から、別紙協議事項3-1から同3-4資料により、平成25事業年度の財務諸表(案)、決算報告書(案)及び事業報告書(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(4) 平成27年度概算要求について

岩川理事から、別紙協議事項4資料により、特別経費、病院特別医療機械設備費及び施設整備費の概算要求について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 徳島大学改革プランについて

野地理事及び高石理事から、別紙協議事項 5-1 及び同 5-2 資料により、現在検討を進めている徳島大学改革プランの概略について説明があり、審議の結果、これを承認した。

(6) 年俸制の導入計画について

岩川理事から、別紙協議事項 6 資料により、徳島大学における年俸制の導入計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、10月1日の導入に向けた関係規則の整備については、導入計画に関する文部科学省との調整終了後となるため、学長に一任することを了承した。

(7) 国立大学法人徳島大学業務方法書の一部改正について

岩川理事から、別紙協議事項 7 資料により、産業競争力強化法の成立による国立大学法人法の改正及び「政府調達に関する協定を改正する議定書（平成 26 年条約第 4 号）」に伴う国立大学法人徳島大学業務方法書の一部改正について説明があり、審議の結果、これを承認した。

(8) 経営協議会学外委員の意見の活用状況に関する公表について

岩川理事から、別紙協議事項 8 資料により、徳島大学ホームページで公表している経営協議会学外委員の意見の活用状況に平成 25 年度の提言と対応状況を追加することの説明があり、審議の結果、これを承認した。

(9) 平成 26 年度徳島大学入学者選抜試験の実施状況について

高石理事から、別紙協議事項 9 資料により、平成 26 年度徳島大学入学者選抜試験の実施状況について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、飯泉委員から、医学部医学科の地域枠における定員不足の説明と本実施状況との相違点について質問があり、調査のうえ後日報告することとした。

(10) 平成 25 年度卒業者及び修了者の就職状況等について

高石理事から、別紙協議事項 10 資料により、平成 25 年度卒業者及び修了者の就職状況等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

(11) 平成 26 年度科学研究費補助金の採択状況について

野地理事から、別紙協議事項 11 資料により、平成 26 年度科学研究費補助金の採択状況について説明があり、審議の結果、これを承認した。

(12) 平成 25 年度外部資金の受入状況について

野地理事から、別紙協議事項 12 資料により、平成 25 年度外部資金の受入状況について説明があり、審議の結果、これを承認した。

5 意見交換

徳島大学改革におけるグローバル化と学部改組について

学長から、別紙意見交換 1-1 から同 1-2 資料により、徳島大学改革におけ

るグローバル化と学部改組の概要について説明があり、意見交換を行った。

主な意見は次のとおり。

- ・ 入試改革において、プレゼン能力やサマースクール等の経験に関する評価についても検討していただきたい。
- ・ 県外の大学が県内の高校生に対して海外大学の受験を勧める動きがあり、そうしたことへの対策を検討する必要があるのではないか。
- ・ 学生の視野を広げるためには、在学中に1ヶ月から半年程度の海外あるいは国内留学を経験させるのがいいのではないか。
- ・ グローバル化については、全学部参加体制の下でしかも全学生を対象としており、意欲的な構想として高く評価する。「スーパーグローバル大学支援事業」採択の有無に関わらず、この方向で進めていただきたい。
- ・ 国内外の受験生に向けて、学部の方針を分かり易く説得力のある言葉で広報していくべきではないか。
- ・ 「企業の人事担当者が選ぶ大学総合ランキング」の結果について、もう少し掘り下げて見ることにより、大学の良い所が出てくるのではないか。
- ・ 生物資源産業学部の名称をもう少し分かり易くしてはどうか。
- ・ 次世代の地域のリーダーを養成する大学だということを、もっと戦略的に前面に打ち出しても良いのではないか。
- ・ 県外からの移住者やそれを受け入れる地域の人達とのディスカッションを通じて、若い人が求めるものやできることは何かを学ぶようなプログラムを組んではどうか。
- ・ 人口減少社会を柱に置き、地域のリーダー育成も柱の1つとして、改革構想を進める中で戦略構想も作って欲しい。
- ・ 「ボーダーレス医療人」と「グローバル理工系人材」の人物像が明確にならなければ、教育方針を見出せないのではないか。また、人物像の定義とそれに伴う専門性だけでなく、価値観や視点の育成についての教育体験等がなければ実現しないのではないか。

次回の経営協議会は、平成26年11月下旬に開催することとなった。

(以上)